

## 生徒が主体的に運動に親しむ態度を育む指導方法の工夫

～「知識構成型ジグソー法」を取り入れ・空間を活用したバスケットボールの授業を通して～

糸満市立西崎中学校教諭 下地 秀隆

### I テーマ設定の理由

変化の激しい社会をよりよく生きるために、学校教育において、児童生徒に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育むとともに、「生きる力」を育成することが求められています。中学校学習指導要領保健体育編によると、具体的な目標として「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」「健康の保持増進のための実践力の育成」「体力の向上」の三つが掲げられている。そして、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むために、「集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成すること」や「筋道を立てて練習や作戦などの論理的思考力を育み、課題を解決するなどの学習をバランスよく行う」ことを体育の授業で取り入れていくことが求められている。

また、本県では、児童生徒の健やかな体を育成するために、学校体育の充実を通して体力の向上を図り、生涯にわたって健康で安全な生活を自ら営んでいくための知識や態度の育成に取り組んでいる。しかし、「平成27年度全国体力・運動能力諸調査結果」では、全国同様、本県の児童生徒の体力の低下と、運動する子としない子の「運動の二極化」が指摘され、積極的に運動やスポーツを実践する生徒とそうでない生徒の体力差が課題となっている。

本校の生徒は、明るく活動的で、運動好きな生徒が多く、そのほとんどが球技を好む傾向にある。しかしながら、運動に対して興味が薄く、運動に真剣に取り組まない生徒がいる。運動することを好む生徒と、そうでない生徒では、学年の段階が上がるにつれて技能や体力面で大きな差が生じる傾向にある。このような状況を打破するためには、体育の授業で様々な運動を経験させ、その特性や魅力に触れる機会を意図的に設定し、運動の意義を理解させ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むことが必要である。さらに、自ら課題を発見し仲間と協力して運動に取り組む態度を育み、達成感や成就感を味わわせ、生徒が主体的に運動に取り組むことが求められる。

これまでの授業実践を振り返ると、球技においては、基本的な技能を身につけさせ、状況に応じた戦い方を工夫させ、仲間とともに練習を工夫しながらゲームを楽しむことに重点を置いて授業を行ってきた。しかしながら、生徒一人一人の運動に対する興味や関心、意識の相違により、自ら進んで活動する生徒と指示を受けてから活動する生徒に分かれ、授業に対する意欲に差が見られた。

生徒一人一人が自ら課題を発見し、仲間と協力して課題解決に取り組む態度や楽しさ・喜びを感じさせるような指導の工夫・改善が必要だと考える。さらに、運動の技能や知識を身につけさせることで、運動に対する興味・関心が高まり、運動に親しむ態度を育むことができるであろうと考える。

そこで、本研究では、バスケットボールの授業を通して、空間を活用することで戦術の理解を深め、知識構成型ジグソー法を取り入れることで仲間と協力して知識や情報を広く活用することができ、「生徒が主体的に運動に親しむ態度を育む」ことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

バスケットボールの授業において、空間を活用することで戦術の理解を深め、知識構成型ジグソー法を取り入れることで仲間と協力し知識や情報を広く活用することができ、生徒が主体的に運動に親しむ態度を育むことができるであろう。

## 2 検証計画

検証の場面	検証の観点	検証の方法
[1] 実態調査の分析 ①生徒の実態調査の実施（バスケットボールに関するレディネス調査）		○レディネス調査
[2] 検証授業 ねらい1:「今持っている力を生かし、チームやルールに慣れ空間を活用したゲームを楽しむ」 ねらい2:「練習を工夫し、技能を高め、作戦を立てながら空間を活用した対抗戦のゲームを楽しむ」	ねらい1 【ボール操作の基本的な技能及び空間に走り込むなどの動きを身に付けることができたか】 ねらい2 【作戦に応じた攻防を展開し空間の活用を身につけることができたか】	○授業観察 ○学習カード ○単元の経過（途中）
[3] 検証のまとめ ねらい3 「高まった力を生かし、空間を活用してゲームを楽しむ」	ねらい3 【身につけた技を空間の攻防で生かしながらゲームを楽しむことができたか】	○単元まとめのアンケート（評価）変容

### (1) 知識構成型ジグソー法での検証

- ① 第1ステップ：自分のわかっていることを意識化する。（全体への問い）
- ② 第2ステップ：エキスパート活動で専門家になる。（お題（課題）を設定し取り組む）
- ③ 第3ステップ：ジグソー活動で交換・統合する。（チームに戻り、得た知識をチームで深める）
- ④ 第4ステップ：クロストークで発表し、表現をみつける。（発表し、表現力を身につける）
- ⑤ 第5ステップ：一人になる。（クロストークで得た知識をカードにまとめる）

## Ⅲ 研究内容

### 1 主体的に運動に親しむ態度を育む指導方法の工夫について

#### (1) 主体的に運動に親しむとは

体育の授業において、すべての生徒に運動の楽しさや喜びを味わわせ、進んで体を動かす態度を身に付けることは重要である。運動の楽しさを味わわせるためには、生徒の体力や運動能力等の実態を把握し、発達段階に応じて体育の授業を系統的に行うことが必要である。さらに、個に応じた運動の内容を、計画的に実施することで、生徒が主体的に運動に親しむことにつながると思う。

体育の学習における主体的とは、生徒が自ら進んで運動に取り組むことである。つまり、めあてを達成するために、より効果的な方法で意欲的に取り組む姿であり、さらに、運動の基礎・基本を身に付けることで意欲が高まると考える。

生徒が主体的に運動に親しむとは、一定の運動量を確保することはもとより、発達段階に応じて運動の仕方や体の動かし方を理解し、運動のコツをつかみ、楽しさを見つけ出し夢中になって運動することである。

自ら進んで体育の授業に取り組む生徒を育成するために、バスケットボールの授業では、特性や魅力に触れ、知識や技術の習得、ルール等を身につけることが求められている。そして、運動の技能や知識を身につけさせることで、運動に対する興味・関心が高まり、主体的に運動に親しむ態度を育むことができるであろうと考える。

## 2 「知識構成型ジグソー法」と「空間」の活用について

### (1) 「知識構成型ジグソー法」の構造

「知識構成型ジグソー法」には、(図1)の様に5つのステップがある。

第1ステップでは、先生は、単元での「問い」を設定する。生徒は「問い」を受け、一人で今思いつく答えを記述する。

第2ステップでは、同一資料を読み合うグループを作り、その資料に書かれた内容や意味を話し合い、グループで理解を深め、担当する資料に詳しくなる。この活動を「エキスパート活動」と呼ぶ。

第3ステップでは、違う資料を読んだ人が一人ずついる新しいグループに組み替え、第2ステップのエキスパート活動でわかった内容を説明し合う。元の資料を知っているのはグループで一人なので、自分の言葉で自分の考えが伝わるように説明する。

この活動が自分の理解状況を内省し、新たな疑問を持つ活動につながる。同時に他のメンバーから他の資料についての説明を聞き、自分が担当した資料との関連を考える中で、理解を深めていく。理解が深まったところでそれぞれのパートの知識を組み合わせ、問いの答えを作り出す。

第4ステップでは、問いの答えが出たら、その根拠も合わせてクラスで発表する。他者の意見に耳を傾けて、自分たちも全体への発表という形で説明を検討し直す。各グループから出てくる答えは同じでも根拠の説明は少しずつ異なることになる。互いの答えと根拠を検討し、その違いを通して一人一人が自分なりのまとめ方を吟味するチャンスが得られ、一人一人が納得する答えが生れる。

第5ステップでは、はじめに立てられた問いに再び向き合い、最後は一人で問いに対する答えを記述する。

### (2) バasketボールの授業における知識構成型ジグソー法

本研究のBasketボールの授業における、知識構成型ジグソー法を取り入れた「空間の活用」を中心に説明する。

第1ステップ：〈シュートの種類をイメージする〉(図2-1)

「シュートの問い」を受け取ったら、はじめにシュートについてイメージする。

第2ステップ：〈エキスパート活動〉(図2-2)

各グループの代表が、それぞれ3つ(ドリブルシュート・セットシュート・ジャンプシュート)に分かれて、それぞれのグループに分かれてシュートの技術や知識を深める。

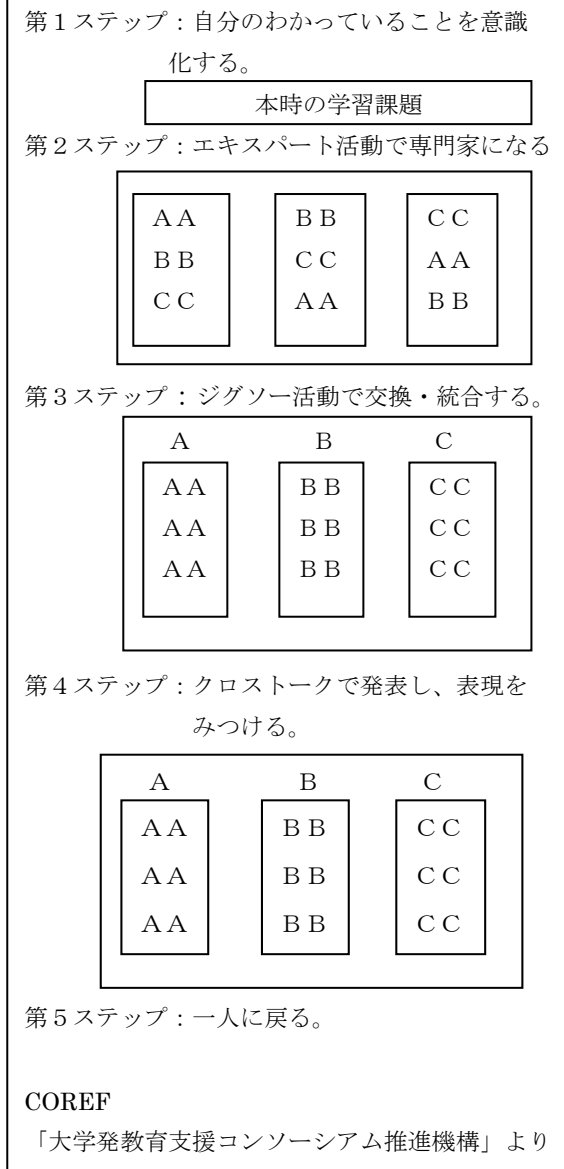


図1

第1ステップ：全体への「問い」  
分かっていることを意識化する

図2-1

第2ステップ：エキスパート活動(専門家)  
・3つのお題(課題)を設定する

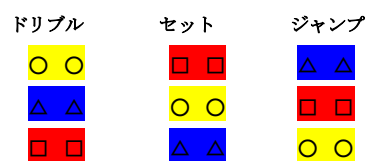


図2-2

### 第3ステップ：〈ジグソー活動〉（図2-3）

エキスパート活動で身につけた、知識や技能をそれぞれ各チームに戻って仲間を広げる。解かった3つのシュートを、各チームに持ち帰り説明し合う。

ここでは、エキスパート活動を分かっているのは自分一人なので、自分の考えを自分の言葉で分かるように、説明することになる。この活動は、自分の理解状況を内省し、新たな疑問を持つ活動につながる。他者の説明を傾聴し、それぞれの知識を組合せ、問いへの答えを作る。

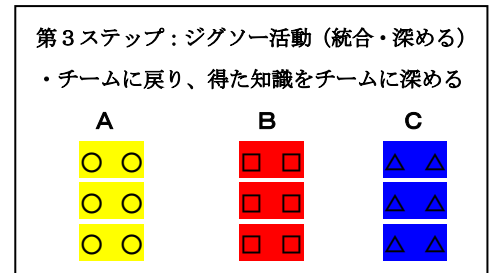


図2-3

### 第4ステップ：〈クロストーク活動〉（図2-4）

今日の授業を振り返り、今日のために向き合いグループの目標が達成できたか、各チームでミーティングを行う。ミーティングでは、他者の意見に傾聴し自分も発表することで表現力を身につける。発表では、根拠を示し説明しながらまとめていく。そこで、一人ひとりが納得する表現が生まれる。その後、チーム代表が全体の前で発表する。

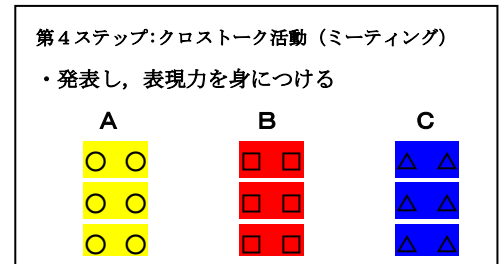


図2-4

### 第5ステップ：〈一人に戻る〉（図2-5）

はじめに立てた問いに再度向き合い、今日の授業のまとめを学習カードに記録する。

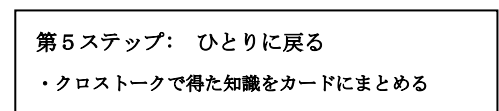


図2-5

## 3 空間の活用について

### (1) ゴール前での攻防（空間の攻防戦）について

中学校学習指導要領解説保健体育編によると、第1学年及び第2学年の球技内容は、「ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること」と示されている。そこで、本研究では、バスケットボールの授業において、「空間の攻防戦」を授業のゴールとする。単元の始めに、「空間の攻防戦」を具体的に説明し、最終ゴールまでの見通しを持たせることで、授業の目標設定ができると考える。空間の攻防戦のキーワードに「空間を作る・攻める・守る」を掲げ、空間の攻防をどう戦うかによって、授業の内容を理解させる。技術面の授業を行い、そして論理的な思考を高めるために分解練習を取り入れる。その分解練習を「エキスパート活動」（図2-2）や「ジグソー活動」（図2-3）に取り入れることで、技術の向上や理解を図ることができると思う。

### (2) 空間の活用について

空間に走り込みシュートを成功させるには、「ボールを持った動き」と「ボールを持たない動き」を仲間と協力して、連携することが大事である。ボールを持たない動きでは、「空間に走り込みパスを受ける動き。」等空間を効果的にいかしてシュートにつなげる。ボールを持った動きでは、「空間にパスができた。空間を作れた。空間を探せた。」などのボール操作をいかしシュートにつなげる。空間を活用して、シュートにつながる動きやパス、ドリブルについての知識や技能を、仲間と協力して練習を工夫し、作戦を立てること等の活動することで積極的に運動に取り組むようになり、運動の楽しさを見つけ出すことができると思う。

### (3) 空間の時間支配

バスケットボールでは、早めに空間を支配したチームがゲームを有利に進めることができる。空間の時間支配とは、ボールを保持した選手が、味方にパスをしたあと相手より素早く敵のいないスペースへ移動し、パスを受けシュートやパス等でチャンスを広げることが「空間の時間支配」と捉

える。

さらに、ドリブルではなくパスを多く活用することで、コートを広くいかすことができ、空間の時間支配をすることができ、より空間の活用ができると考える。

#### (4) 空間へ走り込み

シュートをしてそれを成功させるには、仲間とのコンビネーションとともに、シュートポジションの確保が必要となる。その際、ゲームの展開を予測し、状況に応じてプレイを変更し、空間を有効に活用することが求められる。そのためには、ボールを持ったときは相手に奪われないようにキープし空間にパスし、ボールを持たないときは、空間を作ることやそこに走り込んでシュートすることをしなければいけない。

### 4 「知識構成型ジグソー法」と「空間の活用」の関連性

#### (1) 学びの主体性と空間の活用

バスケットボールの授業において、知識構成型ジグソー法を活用することにより、生徒が主体的・能動的に活動し、知識の理解や技能の高まり等が期待できる。さらに、空間を活用することで思考力や判断力が深まり、チャンスが広がり得点に結びつく等、ゲームの戦略に影響が出る。今回、バスケットボールの授業に、知識構成型ジグソー法の手法を取り入れバスケットボールに関する知識を理解し、仲間と協力してチームの戦術に生かすことで、学び合いや教え合い活動が深まり、協働的な学びにつながると考える。

#### (2) 「知識構成型ジグソー法」と「空間の活用」の関連性

バスケットボールの授業において、空間を活用するためには、空間の状況を把握することが重要である。「問い」の段階で「空間の理解」をし、エキスパート活動で「空間への走り込み・パスの出し方」などを学び、ジグソー活動で「チームとして空間の活用を理解し作戦を工夫する」ことで学び合いや教え合いが生まれ意欲が高まる。また、クロストーク活動で「互いに振り返り、意見を出し合い、代表者がまとめて発表し、他者の意見を傾聴し、自分の考えを広げ、学びを深める」ことができると考える。

つまり、バスケットボールの授業に知識構成型ジグソー法の手法を取り入れることで、学び合いや教え合い等を通して、生徒は互いに積極的に声かけ、解ったことについて自分の考えを説明することができ、学習への興味・関心が高まり、主体的に運動することの楽しさを身に付けることができると考える。

## IV 検証授業

### 1 単元名 球技（バスケットボール）

#### 2 単元について

##### (1) 教材観（省略）

##### (2) 生徒観（省略）

##### (3) 指導観

バスケットボールは、攻防が激しく攻守がよく入れ替わり、激しく点数が入るところが楽しい運動である。さらに、技能が身につくシュートを決めることができると楽しいスポーツである。そのためには、バスケットボールの基礎・基本を習得し、学習の進め方等を身に付けることが重要である。そこで、知識構成型ジグソー法の手法を取り入れ、主体的・能動的な活動を通して運動の意義や楽しさを味わわせ、主体的に運動に親しむ態度を育む。また、チームで練習を工夫し作戦を立てることで、知識や戦術を身につけ主体的に活動する態度を育みたい。授業では、ゲーム分析シートを各チームに準備し、チーム及び個人の技術や戦術の課題、空間を使った練習の方法や戦術の立て方等、分析シートを積極的に活用することで、運動に主体的に取り組む態度を育ませたい。

### 3 単元の目標

- (1) バasketボールの特性に関心を持ち、自己やチームの課題解決に向けて、仲間と協力して積極的に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】
- (2) ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール付近での攻撃を展開する。 【技能】
- (3) Basketballの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【思考・判断】

### 4 授業計画

時間配分	1	2～4	5～9	10～12
10	オリエンテーション (学習の流れ・役割分担等)	準備運動・集合整列・準備・出席確認・前授業の確認・本時めあて確認等 【問いの活動】		
		【エキスパート活動】		
20		ねらい1	ねらい2	ねらい3
30		今持っている力を生かし、チームやルールに慣れ空間を活用したゲームを楽しむ	練習を工夫し、技能を高め、作戦を立てながら空間を活用した対抗戦のゲームを楽しむ	高まった力を生かし、空間を活用してゲームを楽しむ
40		【ジグソー活動】		
50		【空間を活用した攻防について意識化させる】	【作戦に応じた攻防を展開し空間に走り込む等の動きを身に付ける】	【空間の攻防戦を生かしながらゲームを楽しむ】
		本時のまとめ・発表 → 次時の確認 (チームカード記入・自己評価等) 【クロストーク活動】		
評価	診断的評価 →		形成的評価 →	総括的評価

### 5 評価計画

	学習内容	関・意・態	思・判	技	知・理
1	・オリエンテーション 【学習の見通しを持つ】				◎
2	ねらい1：今持っている力を生かし、チームやルールに慣れ空間を活用したゲームを楽しむ	◎			○
3			◎		
4				○	
5			◎	○	
6	ねらい2：練習を工夫し、技能を高め、作戦を立てながら空間を活用した対抗戦のゲームを楽しむ				◎
7			◎		
8			◎		
9				◎	
10	ねらい3：高まった力を生かし、空間を活用してゲームを楽しむ	○			
11		◎			
12	・単元のまとめ				◎

### 6 学習指導の展開

時	学習内容・活動	○教師の指導・支援	評価観点
50	1 オリエンテーション	○Basketボールの特性を理解し、積極的に学習に取り組むことが出来るように意識づけする。 ○主体的な活動になるように、学習のねらいや「知識構	○話をしっかりと聞き、Basketボールの特性や学び方の理解 【知・理】
×	(1)Basketボールの特性の理解		
1	(2)学習の目標、ねらい、授業のゴールを理解		
	(3)授業の流れ、進め方、役割分担を理解		
	(4)評価について理解		
	(5)学習カードの記入の仕方を理解		

	(6)知識構成型ジグソー法の理解	成型ジグソー法」について理解させる。	
	[ねらい1]「今持っている力を生かし、チームやルールに慣れ空間を活用したゲームを楽しむ」		
50 × 3	<p>(7)用具の準備, 出席確認, 安全確認等</p> <p>(8)集合整列, 出席状況, 健康観察等</p> <p>(9)ランニング, ストレッチ, 補強運動等</p> <p>(10)本時のねらい, 学習の流れを確認</p> <p>①知識構成型ジグソー法を活用した学習活動</p> <p>2 シュートの仕方を身に付ける</p> <p>(1)レイアップ・ジャンプ・セットシュートを場面を想定しながら考えて打つ。</p> <p>①空間シュートをミートシュートする。</p> <p>②空間を意識して, 三カ所(左・右・トップ)からシュートの打ちやすい場所を選択して, ゲームに生かす。</p> <p>3 空間の意識化「連続パス&amp;ラン」ドリル</p> <p>(1)空間を意識してパスの後ろを素早く移動しパスを受ける。連続して行い最後はシュートで終わる。</p>	<p>○学習の進め方の理解</p> <p>○用具の準備や片付け・安全面等について支援する。</p> <p>○教え合いや助け合い活動ができるように指導する</p> <p>〈知識構成型ジグソー法〉</p> <p>①課題: 全員で共有</p> <p>②エキスパート活動: チーム代表が技能を理解する</p> <p>③ジグソー活動: 得た技術をチームに伝え, ゲームで活用する。</p> <p>④クロストーク: ミーティングを行い発表する。</p> <p>⑤まとめ: カードに記入</p>	<p>ねらい1</p> <p>【関・意・態】</p> <p>【思・判】</p>
	[ねらい2]「練習を工夫し技能を高め作戦を立てながら空間を活用した対抗戦を楽しむ」		
50 × 5	<p>(1)用具の準備, 出席確認, 安全確認等</p> <p>(2)集合整列, 出席状況, 健康観察等</p> <p>(3)ランニング, ストレッチ, 補強運動等</p> <p>(4)本時のねらい, 学習の流れを確認</p> <p>4 空間の意識化②「連続パス&amp;ラン」: 手渡しパスラン二人組, 手渡しパスランバウンズ, 手渡しパスラン3人組</p> <p>5 空間への走り込み: 2対1をエンドラインから, 連続パスランから空間支配, 連続パスランから空間の意識化。ボールを持たない生徒の走り込みの意識化を図る。</p> <p>6 空間を作る: トップ, 右サイド, 左サイドから空間を作り空間へ走り込み。ボール保持者は空間へのパスやタイミングを意識。ボールを持たない生徒は空間へ走り込みの意識化</p> <p>7 パスで空間を作る: パスの回数で勝負する</p> <p>(1)ハーフコート: 左サイド, ペイントエリア内, ハーフコート内。パスの回数で勝負。空間への走り込みと空間の作りを意識。チーム分析を行い課題や戦術に生かす。</p> <p>8 チーム練習の工夫①: 空間を攻める。2対1をエンドライン。3対2をエンドライン。2対</p>	<p>○学習の進め方の理解</p> <p>○用具の準備や片付け・安全面等について支援する。</p> <p>○教え合いや助け合い活動ができるように指導する</p> <p>〈空間の活用〉</p> <p>(1)ボールを持っている生徒</p> <p>①パスを正確にできたか。②ドリブルで攻めたか</p> <p>③ピボット・ボールキープできたか</p> <p>(2)ボールを持ってない生徒</p> <p>①ゴールから離れる②相手から離れる。③空間へ移動する</p> <p>④ボールをもらいに走り込む等。</p> <p>〈知識構成型ジグソー法〉</p> <p>①課題: 全員で共有</p> <p>②エキスパート活動: チーム</p>	<p>ねらい2</p> <p>【関】①</p> <p>【知】②③</p> <p>【技】①③</p>

	<p>1をハーフライン。チーム練習を工夫しチームプレイの連携を図る。チーム分析を行い課題や戦術に生かす。</p> <p>9 チーム練習の工夫：チーム練習で学び合いや教え合うことで、チーム力を高め連携を図る。チーム分析を行い課題や戦術に生かす。</p>	<p>代表が技能を理解する</p> <p>③ジグソー活動：得た技術をチームに伝え、ゲームで活用する。</p> <p>④クロストーク：ミーティングを行い発表する。</p> <p>⑤まとめ：カードに記録する</p>	
50 × 3	<p>[ねらい3]「高まった力を生かし、空間を活用してゲームを楽しむ」</p> <p>(1)用具の準備・出席確認・安全確認等 (2)集合整列・出席状況・健康観察等 (3)ランニング・ストレッチ・補強運動等 (4)本時のねらい・学習の流れを確認</p> <p>10・11・12 空間の攻防戦：作戦①→ゲーム①→作戦②→ゲーム②→まとめ。チーム練習を工夫し作戦を立てながらゲームを楽しむ。</p>	<p>①ゲーム運営を協力しながら行っているか。</p> <p>②発表が十分に伝わった</p> <p>③役割分担ができた</p> <p>④互いに協力できた</p>	<p>【関】③</p> <p>【技】①</p>

### 7 本時の指導 (11/12時間)

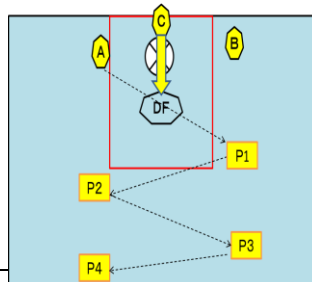
(1) 単元名：「球技」バスケットボール

(2) 本時めあて：「高まった力を生かし、空間を活用してゲームを楽しむ」

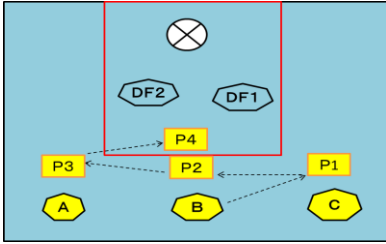
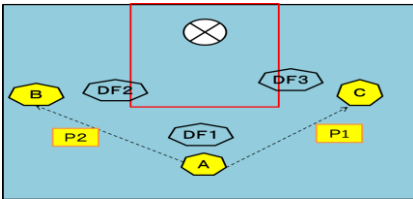
(3) 授業仮説


- ① エキスパート活動をすることで、知識や技能を理解すれば、空間の活用の仕方を身につけることができるであろう。
- ② ジグソー活動をすることで、身につけた知識や技能を、仲間へ広げ・深め、学び合いや教え合うことができるであろう。
- ③ クロストーク活動をすることで、振り返りや意見を出し合い、他者の意見を傾聴、自分の言葉で説明や発表することができるであろう。

段階	○学習内容・活動 ☆予想される生徒の反応	○教師支援・指導・留意点 ◎評価
休み時間	<p>○W-U P・・・各自準備ができ次第、5つのリングを活用してシュート及びドリブルのドリルを行い「空間構成の体験」をする。</p> <p>○学習用具の準備（上記、準備するものすべて）</p>	○用具の準備・安全面等について支援する
導入8分	<p>○集合整列、出席確認、健康観察、今日のめあて、学習の流れ、知識構成型ジグソー法等の確認</p> <p>○「今日のめあて」に対してグループの目標を決める。</p>	○今日のめあてを明確に伝える
	<p><b>1</b> エキスパート活動：各グループの代表がそれぞれ3つ（2対1，3対2，3対3）に分かれ空間の活用等についての技術や知識を深め詳しくなる。</p> <p><b>問い①空間を攻める（2対1）</b></p> <p>・2対1：ハーフラインからの攻防を行い空間を活用しながらシュートできたか。</p> <p>①二人で交互にパスしながらハーフラインまで進む ②中央のプレイヤーはOFが折り返したらDFに入る ③パス回数を多くしシュートする。DFは最後まで守る ④シュートが入るかDFがマイボールで交代する</p>	<p>○エキスパート活動は、出来ていない生徒への支援</p> <p>○できている生徒を模範演技させて支援する。（いいところを見せて参考にさせる）</p>





展	<p>※ 3色のビブスを着た生徒（2～3名）が入り混じり各チームの代表者として2対1の知識や技能を身に付ける。</p> <p><b>問い②空間を攻める（3対2）</b></p> <p>・3対2：ハーフからの攻防を行い空間やノーマークを見つけシュートできたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①3人交互にパスしながら攻撃する</p> <p>②2人がDFする</p> <p>③シュートが入るかDFがマイボールで交代する</p> </div> 	○できていない生徒へ支援する
開 32 分	<p>※ 3色のビブスを着た生徒（2～3名）が入り混じり、各チームの代表者として3対2の知識や技能を身に付ける。</p> <p><b>問い③空間を攻める（3対3）</b></p> <p>・3対3：ハーフからの攻防を行い、空間を活用してシュートできたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①3人交互にパスしながら3対3の攻撃をする</p> <p>②空間を活用してシュートまでつなげる</p> <p>③シュートが入るかDFがマイボールで交代する</p> </div> 	○空間への動きができていない生徒へ声かけをする。  ○生徒の主体ができる環境をつくる。
展	<p>※ 3色のビブスを着た生徒（2～3名）が入り混じり、各チームの代表者として3対3の知識や技能を身に付ける。</p> <p>☆空間の攻防をすることで「走り込みやパス」などを交えシュートすることが予想される。</p> <p><b>2</b> ジグソー活動：エキスパート活動で深めた知識をチームに戻って広める。</p> <p>○エキスパートで身につけた、知識や技能をチームの仲間へ広げる。エキスパート活動しながら、作戦ボードを活用しながらチームの戦術なども取り入れる。</p> <p>○作戦①：ミーティング（ゲーム前作戦会議）</p> <p>☆各チームで、練習を工夫して作戦を立てる。さらに、学び合いや教え合い等から出来ない生徒への声かけが増える。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>空間の攻防戦：作戦①→ゲーム①→まとめ</b></p> </div>	○空間での攻防をしながらシュートまでつなげる。  ○分析結果が生かせる声かけをする。
開 32 分	<p><b>3</b> 総当たりのゲーム：<b>1</b> <b>2</b> の活動で得た知識を生かしてゲームをする。（自分たちで運営する）</p> <p>○ゲーム①</p> <p>第1試合：李樹JAPAN VS あっきージャパン</p> <p>第2試合：あっきージャパン VS ジャイアント・りょうと</p> <p>第3試合：ジャイアント・りょうと VS 李樹JAPAN</p> <p>○ゲーム分析シートの記録を活用して、チームの戦術に生かす。記録係のテーブルを準備し、ゲームしていないチームが、2チームの「ゲーム分析シート」の記録をとる。</p> <p>☆お互いの役割を分担し活動している。ゲーム分析シートでは、相手チームを分析し、気づいたところを声かけする。さらに、チームカードや分析カードをチェックして戦術に生かす。<b>自分の言葉で発表ができる（伝えること）</b></p>	○ゲーム分析とは、空間に走り込めたか、空間へパスできたか、空間を活用しながらシュートできたかを、ゲームしていないチームが記録する。
	<b>4</b> クロストーク：今日の授業を振り返り、「今日のめあて」に向き合い	◎関・意・態

	<p><b>グループの目標が達成できたかミーティングをする。</b></p> <p>○各チームに分かれてミーティングをする。</p> <p>☆めあての振り返りで、感想を互いに発表しながら、</p> <p><b>5 代表がまとめを発表する</b> カードに記入する。</p> <p>○発表を聞いて、気づきがあった生徒は内容を述べる。</p> <p>☆仲間の発表を聞きながら、自分なりにまとめる。</p> <p><b>6 本時の振り返り</b></p> <p>○次時の連絡、あいさつ、片付け等</p>		<p>(活動の観察)</p> <p>○発表後は賞賛する。</p>
--	--	--	----------------------------------

## 8 授業仮説の検証

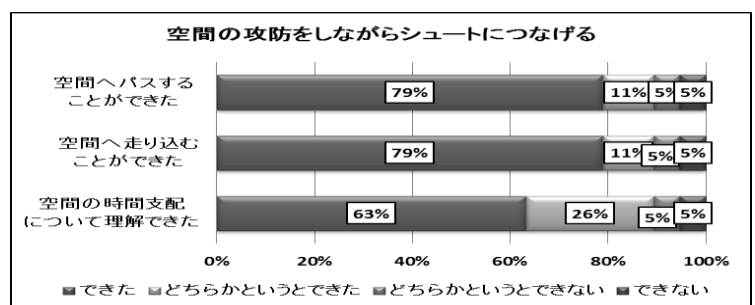
本時の授業検証の仮説については、授業観察、チームカード、ゲーム分析カード、アンケート等の記述を基に考察する。

### (1) 「空間への走り込みや空間へのパス等を通して、空間の攻防を意識しながらシュートにつなげることができたか。

確率よくシュートを決めるには、ノーマークの状態を作ることが大事である。授業では、エキスパート活動で空間への走り込みや空間へのパス、空間の時間支配等、空間の意識を理解するために2対1や3対2を実施した。

検証後の結果では、「空間へパスすることができた・どちらかというときできた」

図3 空間の攻防をしながらシュートにつなげる



「空間へ走り込むことができた・どちらかというときできた」いずれも90%。「空間の時間支配が理解できた・どちらかというときできた」では、90%である。さらに、「空間ができたなら急いで空間に走るようにした。空間を見つけたらそこに走り込むことを心がけた。」等生徒の声があった。(図3)

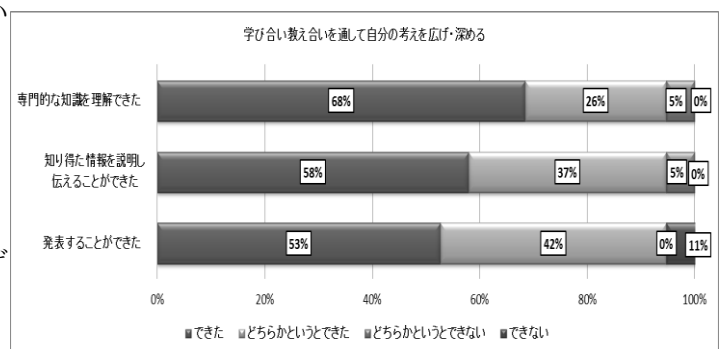
以上のことから、エキスパート活動を活用したことは「空間の攻防をしながらシュートにつなげる」ということが理解できたと考える。

### (2) 空間の攻防戦の中で、学び合いや教え合いを通して、自分の考えを広げ・深めることができたか。

2対1や3対2を成功させるには、互いに身につけた知識を広げ、深めるために、各チームごとに別れジグソー活動を行った。授業において、ゲームの結果をキャプテンを中心に「ゲーム分析カード」等を活用し、相手チームの分析を行い、自分が解っていることをチームに伝え・広げ深めることを行った。

検証後の結果では、95%が「知り得た知識や情報を仲間に説明できた・どちらか

図4 学び合い教え合いを通して自分の考えを広げ深める



というときできた」, 「知識を理解できた・どちらかというときできた」が94%「発表することができた・どちらかというときできた」が95%であった。(図4)

以上のことから、ジグソー活動を活用したことは学び合いや教え合い、自分の考えを広げ・深めることができたと考える。

### (3) グループでの学び合いや話し合いの中で得た、新たな気づきや理解等を深めることができたか。

ジグソー活動やエキスパート活動の中で身につけた知識や技能を活用し、クロストーク活動の中で授業を振り返り、意見を出し合い、他者の意見を傾聴することで新たな気づきや学びができたかについて考えてみると次のようになった。今日の授業を振り返り、めあてに向き合い目標が達成できたか、

各チームでミーティングを行い、ミーティングでは、他者の意見に傾聴し自分も発表することで表現力を身に付けた。一人一人が根拠を示し説明しながらまとめて発表する授業を行った。

検証後の結果では、84%が「ミーティングで発表することができた・どちらかというところできた」と答えている。また89%が「仲間の意見をきくことができた・どちらかというところできた」と答えている。さらに100%が「クロストーク活動について理解できた・どちらかというところできた」と答えている。(図5)

以上のことから、クロストーク活動を活用したことは新たな気づきや理解を深めることができたと考えられる。

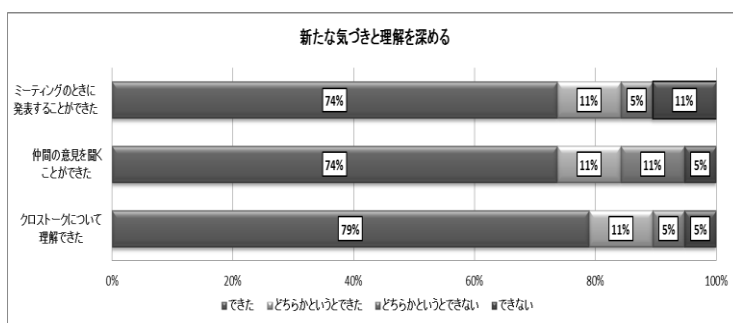


図5 新たな気づきと理解を深める

## V 研究の結果と考察

研究の考察は、レディネス調査や事後アンケート、毎時間の授業のグループカード、検証授業の観察等を用いて行う。

### 1 空間を活用したバスケットボールの授業について

空間を活用してシュートするためには、ボールとゴールが同時に見える場所に立つことや、パスを受けるためにゴール前へ空間移動する動きを身につけ、シュートのチャンスを作ることが必要である。授業では、エキスパート活動で生徒に「空間に走り込む動き」や「空間を支配する動き」、「空間にパスをする」などの動きを理解させるために、「3対2」や「2対1」の練習を多く取り入れた。

検証後のアンケート結果では、「ゴール前への走り込む動き」「ゴール前への走り込む動き」と「空間を支配する動き」では「できる・どちらかというところできる」が100%と答えている。さらに「ゴール前への空間のパス」では95%が「できた・どちらかというところできた」と答えている。「空間の構成」では94%の生徒が「できた・どちらかというところできた」と答えている。(図6)

以上の結果から、空間を活用しバスケットボールの特性や魅力に触れることができたと考えられる。

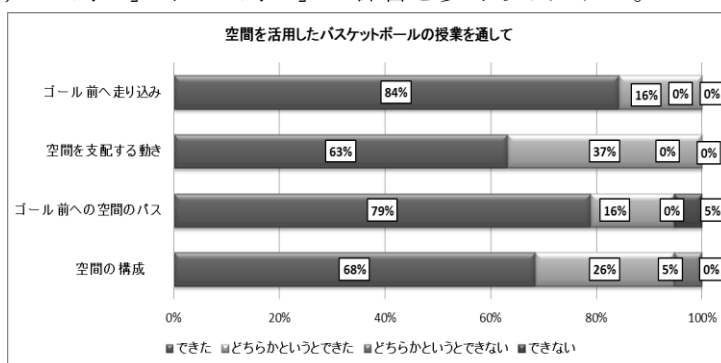


図6 空間を活用したバスケットボールの授業を通して

### 2 仲間と協力して知識や情報を広く活用することについて (知識構成型ジグソー法)

空間を活用した知識構成型ジグソー法では、「学び合い教え合い」「知識が深まる」「ゲーム分析で表現する」などを、身につけることができたか、については図7のような結果になっている。

授業では、ジグソー活動の中で、空間を活用した「2対1や3対2」等、攻撃の仕方をチームの中で互いに教え合い、学び合うことを行った。また、エキスパート活動の中では、様々な動きを専門的な知識として深める活動。クロストーク活動では、ゲームの分析結果を仲間と共有し発表する活動を行った。検証後の結果では、「学び合いや教え合い」では、「できる・どちらかというところできた」が100%と答えてい

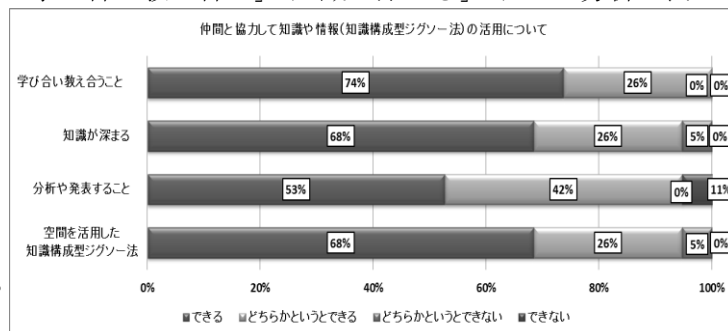


図7 仲間と協力して知識や情報(知識構成型ジグソー法)の活用について

る。また「知識が深まる」と「分析や発表」では「できる・どちらかというとできる」が95%と答えている。「空間を活用した知識構成型ジグソー法」では「できた・どちらかというとできた」が94%と答えている。(図7)

以上の結果から、グループで作戦を立てたり、振り返ることにより自ら課題を発表し、仲間と協力して学ぶことから、知識構成型ジグソー法の手法が学び合い教え合いの活動に有効であったと考える。

### 3 生徒が主体的に運動に親しむ態度を育む指導方法の工夫について

体育の授業における主体的とは、生徒が自ら進んで運動に取り組むことである。つまり、めあてを達成するために、意欲的に取り組む姿であり、さらに、運動の基礎・基本を身につけることで意欲が高まると考える。本授業では、知識構成型ジグソー法を取り入れることで、生徒同士が教え合いや学び合いの活動に積極的に取り組み、自らの考えを深め仲間と協力して授業に取り組むことを行った。その結果、授業への興味や関心が高まり、授業の準備が早くなりボールに触れる場面が多く見られた。さらに、ゲームにおいては、ゲーム分析シートを活用し、相手の分析を行うことにより、良さや課題が発見でき、作戦や練習方法などに活用できた。検証後の結果では、「授業に積極的に取り組めた」では「できた・どちらかというとできた」が95%、さらに「チーム分析を作戦にいかした」では「できた・どちらかというとできた」が74%と答えている。「ウォーミングアップに積極的に参加できた」では「できた・どちらかというとできた」が100%と答えている。

以上のことから、知識構成型ジグソー法を用いたことで、運動の基礎・基本、技能を身につけることができ、主体的に運動に参加するようになり、自ら課題を発見し仲間と協力して運動に親しむことができたと考える。

## VI 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

(1) 空間の活用をすることで、戦術の理解や技術の向上につながり、バスケットボールの特性や魅力に触れることができた。(V-1)

(2) バスケットボールの授業に知識構成型ジグソー法の手法を取り入れたことで、学び合い・教え合う活動等協働学習を進めることができ、生徒が自ら課題を発見し主体的に運動に親しむ態度を育むことができた。(V-2)

### 2 今後の課題

(1) 「知識構成型ジグソー法」は「型」があるため、技術向上の時間確保

(2) 他の単元における「知識構成型ジグソー法」の手法を取り入れた体育学習の指導方法の工夫

### 〈主な参考文献〉

- 宇土正彦 監修 阪田尚彦 高橋健夫 細江文利 編集 『学校体育授業辞典』 東洋館出版社 1995年  
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』 ぎょうせい 2008年  
国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』 教育出版 2011年  
三宅 なほみ 監訳 『21世紀型スキル』 北大路書房 2014年  
三宅 なほみ 編集 『協調学習授業デザインハンドブック』 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 2015年  
沖縄中学校体育研究会 『沖縄県版 教師用指導資料集』 沖縄時事出版 2015年  
(<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>) (2016/05/17 アクセス)